



令和元年 ～新たな時代の幕開け～



会報第63号

宮城県宮城第一高等学校同窓会

会長 戸塚 静江

所在地 仙台市青葉区八幡一丁目6番2号

電話・FAX 022(261)7855(同窓会専用)

E-mail info@miyaldousoukai.com

振替 02290-2-5964

同窓会会報編集委員会

印刷 仙台市青葉区春日町8番34号

創文印刷出版株式会社

会員の皆様には、母校のために様々な面で深い御理解と温かい御支援を頂戴しております。心より感謝申し上げます。

学校では国際交流の推進に努め、今年四月末十人を米国西海岸に二週間送り出し、十月には豪州から三十六人を迎え入れます。十二月には二年百十人が台湾へ研修旅行に出かけます。



未来を切り拓く

校長 吉野 隆

各教室にはプロジェクターを配置し、タブレットPCを教員の約半数に配付しています。ICT(情報通信技術)等も活用しながら魅力ある授業の創出に取り組んでいます。

校舎改築については、今年十二月に仮設校舎建設を開始し来年八月に移転。その後、現校舎を解体し跡地に新校舎を建設します。令和六年四月以前に新校舎を

使用できるよう準備を進めています。

生徒たちが自分の未来を切り拓くため生き生きと学校生活に取り組み、目を輝かせて授業に取り組む、そんな宮城第一高校でありたいと願っています。

結びに、同窓会の益々の御発展と皆様の御健勝を祈念し、御挨拶とします。



同窓生の歴史をつなぐ

同窓会会長 戸塚 静江

昨年の同窓会総会で次期会長就任を承認していただき、四月一日から活動しております。皆様のご協力により、同窓会活動がスムーズに進行していることに感謝申し上げます。

校の重みをひしひしと感じました。この歩みを絶やすことなく、後輩たちに受け継いでもらうために、橋渡しをしてゆかなくてはならないと思いました。

今年二月十四日には、高校七十一回生の「同窓会入会式」が行われました。これから世界に羽ばたく卒業生の前に立った時、百二十年を超える歴史を刻んだ母

宮城一高は二〇二〇年の十二月から現校舎の解体工事が始まり、新しい校舎は二〇二四年に出来上がる予定です。また新しい歴史が宮城一高に加わります。校舎は変わりますが、同窓会

室のある秋桜館はそのまま残ります。今まで通り皆様お気軽に訪ねてくださいることを楽しみにしております。

人と人とのつながりが希薄になっている世の中ですが、宮城一高の同窓生としてのつながりを大切にしてまいりたいと思います。

(高20回)

9月7日土曜日、令和初の同窓会総会が
仙台国際ホテルで開催されました。

爽やかな秋晴れのもと、来賓27名を含
む166名の参加をいただき、恩師や旧友と
久々の再会を喜び合いました。



と誇りを胸に～

朝から快晴のこの日、総会
は近江洋子さん(高48回)
の司会で進められました。
総会準備委員長の小野教子
さん(高48回)の挨拶に続
き、同窓会会長の戸塚静江
さん(高20回)から今年度の
同窓会新役員のご紹介の
他、今回出席された昭和
十七年卒の本科四十四回生
から平成十八年卒の高校
五十八回生までの皆様への
感謝が述べられました。こ
の総会は、先輩方からパ
ワーを頂き後輩の生き生き
とした活躍を見ることがで
きる大切な日であるという
お話から始まり、二〇二〇
年の校舎改築のことに触
れられ、戸塚会長自身も、
五十年前木造校舎から現在
の校舎に改築されたときに
在学し二つの校舎で学んだ
とのこと、夏休みに机椅子
を新校舎に運んだ思い出が
懐かし、現校舎に名残惜
しい気持ちもあるものの、
新たな校舎ができることへ
の期待が込められたお話が
ありました。その後、この
一年で亡くなられた先生
方、および同窓生の方々に
黙祷をささげました。

次に吉野隆校長から現在
の母校の様子について、大
きく三つのお話がありまし
た。まず始めに、今年度の
部活動の実績並びに大学進
学についてのご報告、次
に、年々盛んになる国際交
流について今年度及び来年
度の事業計画のご説明があ
りました。最後に、校舎改
築事業について「新校舎の
供用開始が令和六年春から
五年八月に前倒しになった
ことで、三年間仮設校舎で
過ごす生徒はいなくなりま
す」との嬉しいご報告があ
りました。



高橋章子さんのご発声で乾杯!

続いて、来賓の先生方の
紹介の後、議事に入りまし
た。同窓会副会長の牛坂律
子さん(高23回)が議長を務
め、平成三十年度行事報告
・会計決算報告及び監査報
告、続いて二〇一九年度行
事予定案・会計予算案につ
いて協議し、全議案が拍手
をもって承認されました。
その後、ホーキンス・明子
さん(高48回)による講演が
行われました。大学卒業後
オーストラリアのパースに
移住してからのことや現在
の活動についてお話しいた
だき、さらに明子さんの指
導を受けながら実際に会場
の皆さんでエクササイズを
体験しました。「正しい姿勢
が大切」との言葉を聞いて
会場中が一斉に背筋を正す
様子に、いつまでも美しく
健康でありたいという関心
の高さがうかがえました。
続いて、本科四十四回生
から高校九回生までの方々
に、花束の贈呈が行われま
した。先輩方の明るく潑刺
とした姿に私たち後輩は改
めて刺激を受け、華やいた
空気に包まれたひと時とな
りました。

おしゃべりの花咲く ひととき

同窓会仙南支部副支部長
の高橋章子さん(高16回)の
ご発声で乾杯が行われ、会
食が始まりました。今年は
季節を感じる和食に舌づつ
みを打ちながら、懐かしい
友やお世話になった先生方
との再会におしゃべりの花
があららこちらで咲き誇り
ました。

各テーブルの上に用意さ
れた先生方からのメッセー
ジ集や、運動会・歌合戦等
の様子

が収められた映像に
目を細めつつ、限られた時
間を存分に楽しむことがで
きました。
また、会食の最後に、宮
一高の校章「丸に松皮菱」の

講演 ～オーストラリア・パースから贈る～ 美と健康のためのボディメイクピラティス

今回、同窓会総会で講師をさせて頂きました、オーストラリア・パース在住の看護師・ピラティスインストラクターのホーキンス明子です。両方の知識と経験から、皆さまの健康に少しでもお役に立てるような内容を届けたいと思い、姿勢を保つことの重要性を中心に健康増進・予防に役立つ話をさせて頂きました。

ピラティスインストラクターがまず初めにみるのは、骨格です。正しい骨の位置・骨格を保つ、ということは見た目だけではなく、身体の循環や機能に大きく影響を与えます。最近ではパソコンやスマホなどの使用により、若い方や子供たちまでも猫背やストレートネックといった悪い姿勢が多くみられるようになってきました。では、姿勢が悪い状態が続くとどうなるのでしょうか？骨の位置がずれると、体液の流れが滞ってしまったり、内臓が正しい位置から外れてしまいます。そうすると必要な臓器に十分な栄養や酸素が行き届かなくなり、身体の機能にも障害をもたらします。そして次に影響を受けるのが骨と骨の間、すなわち関節です。関節に健康的な隙間が保たれないと、可動域が狭くなり身体の動きが制限されたり、痛みやヘルニア、炎症、ひどくなると骨自体が摩擦するという状態にもつながります。

では、正しい骨格、姿勢を保つためにはどうしたらいいか、ということで体の軸を保つために大切な筋肉群・4つのインナーマッスルの紹介と、実際に動いてみて体を使うことの大切さを体感して頂きました。

超高齢化社会に突入した今、健康で自立出来た状態を出来るだけ長く保つというのは、ご自身が豊かな老後を過ごすためにも、また医療や介護の負担を軽減することで社会への貢献にも繋がります。これからは、治療も大事ですが、私たち一人ひとりが意識を高め、予防や健康増進の大切さを自覚し、実行していくことが大切なのではないかと思います。





今年は和食で

令和元年度 同窓会総会

よみがえる青春～輝き

参加者の声

昭和二十二年の北六番丁新校舎への移転を経験された、早山洋子さん。早山さんは、「お稽古事が上達すると言われる六歳六月六日より日本舞踊を始め、現在も藤間勲右衛門派の師範・藤間勲そめさんとして、国分町の稽古場で二十五人のお弟子さんを指導していらっしゃるそうです。平成九年、母校創立百周年記念式典の折「長唄・七福神」を舞われ式典に華を添えられた早山さん、当時の漂然たるお姿は今も健在です。令和元年六月に仙台国際ホテルで行われた米寿のお祝いでは、仙台商工会議所・鎌田宏会頭夫妻、奥山恵美子前仙台市長、歌舞伎俳優の方など約百六十名の方が出席されたそうです。

早山 洋子さん
本51回
(昭和24年3月卒業)菊地 敏子さん
高58回
(平成18年3月卒業)

数年前から、今年度は当番学年であることを意識していたという菊地さん、高校時代は書道部に所属していたそうです。当時は女子高であった宮城一高は、菊地さんが自分らしく生活できる高校だと感じただけで選んだとのこと。三年間の高校生活では自立心を培うことができ、小中高大を通して最も自分に合った学校だったとほのぼの話していました。総会に参加したことで、様々な歳の同窓生から話を聞くことができたのも多く参加してほしいということ、また、先輩方がこの会を大事にしていることがわかり、十年後は幹事としての務めをしっかり果たしたいと力強く話をしてくださいました。

「心を一つに校歌斉唱、誇りを胸に開会へ」
懐かしい友や先生方との歓談の時間の後には出席者全員での校歌斉唱です。それぞれの時代に思いを馳せて響かせる歌声の中に歴史の流れを感じることができ、卒業した母校を思い歌う校歌はと

焼印をあしらったデザートが、山元町の無花果と共に提供され、会場は大いに盛り上がりました。

でも感慨深いものでした。藤野美紀さん(高38回)の閉会のご挨拶では、「宮城一高は『憧れの学校』であること」「これからも宮城一高が宮城県のリーダーとして発展し続けること」をお話いただき出席者は宮城一高同窓生であることの誇りを新たにしました。それぞれが明日への活力を得て令和元年の同窓会総会は盛会のうちに幕を閉じました。

●平成30年度宮城県宮城第一高等学校同窓会会計決算書

【1】基本金

科目	予算	決算	増減	摘要
繰越	10,315,914	10,315,914	0	
雑収入	4,086	849	-3,237	
合計	10,320,000	10,316,763	-3,237	

<別途> 東北電力株 864株×1,421円=1,227,744円(平成30年3月31日)

科目	予算	決算	増減	摘要
雑費	0	216	216	残高証明手数料
経常費へ繰入	0	196,397	196,397	七十七事業基金口座解約
次年度繰越	10,320,000	10,120,150	-199,850	
合計	10,320,000	10,316,763	-3,237	

<別途> 東北電力株 864株×1,412円=1,219,968円(平成31年3月29日)

【2】経常費

科目	予算	決算	増減	摘要
繰越	2,847,418	2,847,418	0	
年同窓生	3,000,000	3,232,000	232,000	
年会費	504,000	498,850	-5,150	600円×831名 返金あり
新入会費	280,000	273,000	-7,000	1,000円×273名(高71回生)
総会参加費	1,200,000	1,008,000	-192,000	
基本金より繰入	0	196,397	196,397	
雑収入	8,582	105,068	96,486	利子、配当、寄付等
合計	7,840,000	8,160,733	320,733	

科目	予算	決算	増減	摘要
1.事業費	4,520,000	4,157,920	-362,080	
1)総会経費	1,900,000	1,771,116	-128,884	国際ホテル、担当回事務費等
2)会報発行費	1,800,000	1,552,122	-247,878	会議費、印刷費、発送費
3)会議費	350,000	351,752	1,752	運営委員会・常任幹事会等
4)奨学費	400,000	412,930	12,930	学生会補助、卒業証書ホルダー(2年分)
5)支部助成費	70,000	70,000	0	東京1万円、他5,000円×12支部
2.事務局費	2,380,000	2,645,335	265,335	
1)人件費	1,500,000	1,787,500	287,500	事務局給与
2)旅費交通費	240,000	261,120	21,120	支部総会出張旅費
3)慶弔費	200,000	252,992	52,992	支部総会祝儀、香典等
4)通信費	80,000	82,059	2,059	電話料金、郵送料
5)備品費	50,000	40,000	-10,000	複合機、額装
6)消耗品費	80,000	72,988	-7,012	事務用品、灯油代等
7)資料整備費	30,000	15,244	-14,756	卒業アルバム代等
8)贈答品費	150,000	125,280	-24,720	HPドメイン管理料等
9)雑費	50,000	8,152	-41,848	振込手数料等
3.予備費	110,000	0	-110,000	
支出計	7,010,000	6,803,255	-206,745	
4.繰越	830,000	1,357,478	527,478	
合計	7,840,000	8,160,733	320,733	

出席された先生にインタビュー

佐藤 典郎先生
(物理)

平4・4～18・3

お母様と奥様がともに一女の卒業生ということ、「人一倍思い入れのある学校だったよ」、開口一番に笑顔で「おっしゃられた典郎先生。平成四年から平成十八年までの長きに渡って勤務され、その間、創立百周年記念事業や理科創設に携わり、その時の様子を感慨深げにお話しくださいました。現在は市内の高校で非常勤講師をなさりながら、ヨガ教室に通うなど、非常に充実した生活を送っていらっしゃる様子でした。

白井 聡先生
(現代社会)

平2・4～6・3

今も昔と変わらぬ若々しいお姿の白井先生。一女へは大学院を卒業されてすぐに勤務されたとのことで、「反骨精神のある生徒に囲まれ、日々鍛えられました」と懐かしそうにお話しくださいました。卒業式に生徒から花束などをプレゼントされたことが忘れられない思い出で、先生への信頼の厚さを感じさせる当時のエピソードもお聞かせいただきました。現在も市内の高校で教鞭をとられていらっしゃる中で、相変わらず生徒思いの様子が伝わってきました。

客員(旧職員)	出席の先生方
牛坂 律子	金子 克子
黒川 利司	金野 和男
佐々木正弘	佐藤 周
佐藤 成晃	佐藤 典郎
澤田 可知	庄子 英利
東海林弘子	白井 聡
鈴木 文雄	富永 明
原田 夏子	村岡 利信
特別会員(現職員)	
吉野 隆	加藤 徳善
藤倉 義己	半澤 洋一
佐々木秀夫	島倉 透子
穀田 恵子	永沼 幹子
西澤 朋子	中田理恵子
千葉 雪乃	

(順不同・敬称略)

母校訪問

さよなら校舎



校舎改築によせて

「仙台市高等女学校」
として開校したのが明治三十年四月。明治三十二年元寺小路に新校舎完成。

現在の校舎は昭和四十年九月に着工され、四十一年に二・三年生が移転し、四十四年五月に全校生徒が移転を完了したそうです。また、「新体育館」は、旧校舎を解体した跡地に建設され、四十六年に完成。ここに戦後の苦難を乗り越え、見事に中島丁校舎群が完成した」とあります。『学校創立百周年記念写真集 一女高の百年』より。

このように多くの卒業生が共に学び友情を育んだ、私たちの学び舎・中島丁校舎。その解体が決まり、県内最新の校舎となります。同窓会では来年六月の幹事会の折、現校舎見学会を予定しております。懐かしく、思い出の詰まった校舎……解体される前に、その姿をご覧になってみてはいかがでしょうか？

栄光記録

(平30・9・15 令1・8・31)

運動部

陸上 ▽新入大会 女子走り高跳び一位、男子二〇〇m二位 (以上東北大会出場) ▽県総体 女子走り高跳び一位 (東北大会出場) **水泳** ▽国体県予選 (少年女子A) 五〇m自由形二位 ▽県民体育大会 (高校女子) 五〇m背泳ぎ一位 ▽新入大会 女子総合六位、八〇〇m自由形二位、四〇〇m個人メドレー六位、八位、四〇〇mメドレー六位、八位、四〇〇mメドレー六位、四〇〇m女子総合七位、二〇〇m平泳ぎ八位、二〇〇m個人メドレー七位、四〇〇m個人メドレー八位、四〇〇mメドレー六位、四〇〇mメドレー六位 (以上東北大会出場)

文化部・その他

放送 ▽第37回県高校放送コンテスト新入大会 ビデオメッセージ部門最優秀賞 (第43回全国高校総会文化祭 (以下佐賀総文と表記) 出場、アナウンス部門優良賞・奨励賞) ▽入選、朗読部門優良賞・奨励賞 (2) ▽入選、朗読部門優良賞 (以上東北大会出場) ▽鉄道弘済会・社会福祉法人日本盲人福祉委員会 朗読録音奉仕奨励賞 **文学** ▽第15回県高校文芸作品コンクール 短歌部門最優秀賞 (佐賀総文出場・優秀賞 ▽第33回全国高校文芸作品コンクール 短歌部門優秀賞 ▽県高校文化連盟2018年度表彰 ▽第14回全国高校生短歌大会出場 **理化** ▽第42回全国高校総会文化祭 自然科学部門ポスターパネル発表文化庁長官賞 ▽Scienceday AWARD2018 仙台市長賞 ▽日

本化学会東北大会 優秀ポスター賞 ▽第71回県高校理科研究発表会 (化学部門優秀賞(2)) ▽JISEC (高校生科学技術チャレンジ) 2018 最終審査会優秀賞 ▽県高校文化連盟2018年度表彰 **生物** ▽第71回県高校理科研究発表会 生物部門最優秀賞 (佐賀総文ポスター発表・優秀賞(2)) **地学** ▽第71回県高校理科研究発表会 地学部門最優秀賞・優秀賞 **美術** ▽第70回仙台市内高校美術展 美術研究賞・美術賞・優秀賞 (3) ▽第71回県高校美術展 優秀賞 (2) ▽奨励賞・優秀ポスター賞 **書道** ▽第67回県高校書道展 推薦特選・金賞(1) ▽第70回全国学生書道展 優秀賞・奨励賞 (4) ▽第66回川開書道展 準大賞 **ジャズダンス** ▽第26回県ダンスフェスティバル2018 最優秀賞・最優秀新人賞 (全国大会出場) ▽優秀賞 ▽東北ダンスドリル秋季大会 ヒップホップ部門一位 ▽第32回全日本高校ダンスフェスティバル出場 **管弦楽** ▽佐賀総文出場 **華道** ▽全国高校生花いけバトル東北大会 五位 **囲碁** ▽第42回全国高文祭 将棋部門個人戦三十位 ▽第32回東北地区高校囲碁選手権 女子級位者戦出場 ▽第43回全国高校囲碁選手権県大会 女子団体二位 **かるた** (平成30年度後期学友会総会にて部に昇格) ▽第40回全国高校小倉百人一首かるた選手権大会 団体戦ベスト16 個人戦C級四位、D組一位・四位 ▽第27回県高校小倉百人一首かるた大会二部の部五位、初段の部六位・七位 (以上東北大会出場) ▽第25回東北・北海道高校小倉百人一首かるた新人大会 三位 (宮城県合同チーム) ▽東北北海道高校かるたウィンタートーナメント D2級一位、D1級二位・三位 ▽第43回全国総文祭小倉百人一首かるた部門県予選 A級三位・四位六位 (以上佐賀総文出場) ▽第41回全国高校小倉百人一首かるた選手権大会県予選 団体三位 **その他** ▽第62回社会科学研究発表会 会長賞 ▽県高校家庭クラブ連盟研究発表大会 ホームプロプロジェクト部門優秀賞

イン ~令和元年に寄せて~

いつでもスタート

高26回 加藤 道代



ものすごいパワーですから、疑いのような未来やそこへ向けたスタートはまぶしいばかり。

「スタートラインというテーマで……」というご依頼をお引き受けはしたものの、これが結構難しいのです。近年は、「新たに始めて、進めて、広げる」というよりは、「これまでを振り返り、まとめて、整理する」ような感覚が強いからでしょうか。定年退職を間近に控えて、「どう終わるか」ばかり考えているし、長年家の中に溜まってしまったものを「どう始末するか」で頭が痛いし、新しいものを買うとなれば、「これから何回使う？元は取れる？」と考えては手が止まってしまうし……。

年齢を重ねると、ザンネンなことはあれこれ増えてきます。若さはそれだけで

もうすこし（老眼だし）、耳を傾けよう（耳も遠いし）、心に留めよう（すぐ忘れるから）と、結構、努力してたりもします。時間の逆戻りとやり直しはできないけれど、過去



と現在のとらえ直しならなんとかできる。未来の先読みはできないけれど、だからこそサブライズはある。つくづく、人生って上手く出来ていると思います。何はともあれ、時間は刻まれ、時代はかわっていきます。「今、何歳だった？」「あの方のお名前は何？」「昨日は何を食べた？」等など、即答できなくてショックを受けることは増える一方ですが、ドンマイドンマイ。覚えていられないくらい、時を重ね、たくさんの人に出会い、いっぱい美味しいご飯を食べてきたのだから。しかも、そんなにたくさんの時間を重ねても、今日は昨日と違って新しい。スタートしましょうか。いつからでも。

スタートラインを引くのは自分

高38回 山本 潤美

昭和五十七年に「一女」の高き門をくぐり喜んだのは束の間、圧倒的劣等感を感じた三年間。大学卒業後、地元銀行に入行し数年勤務後、家業へ。業種界界的に圧倒的男文化の中で実績を積むも、表面的には受け入れられるも、評価や存在意義を勝ち取れずにいるまま、結婚、息子三人を出産。変わらぬ仕事とほぼワンオペ家事育児という忙しい日々。一方で親しい先輩や友人達の輝かしい仕事ぶりが聞こえてくる。その先輩に「いま子育てで思うように動けなくても、その経験やそこで培った縁は必ず潤美ちゃんの力になるから」と伏線となる助言をいただく。

毎日積み重ねる生活から、子育てにおける心のタフネス、仕事と家事育児の時間のやりくり、毎日



立つお台所での細かなノウハウやものの選び、食事の重要性を体感で得る。震災後、再会した旧友との会話で「いままで後悔したことって何？」と聞かれ、「やらなかった後悔」と口をついて出た。

直後、社業でひとつス Tepp を上げるため、新店舗の構想をもつ。ふんわりとしたその構想にむけ、様々なショッピングセンターで期間限定ショップを二年間企画、運営。その甲斐あって出店のお声がけをいただき、商品および店舗の基本構想から、具体的なコンセプト立案、設計、契

約、さらには採用や運営の一切を手がけ、二〇一六年十一月にセルバテラスに「日々ノ道具奥田金物」を開業。「日々ノ道具奥田金物」はせわしない流行や価格競争とは一線を画し「道具屋」として日々の生活、「ハレとケ」であればケの毎日を彩る「佳きもの」をご案内できれば、との店舗。

新店舗開業が私のスタートラインとするなら、日々の生活の折々に気づきにくく、今年というなら「おやっちゃんいなよ」と背中を押してくれて、その中身を埋める思考の源は日々の生活の積み重ねからの経験。何かが素晴らしい秀でて作り上げたものではない。故に、周囲に感謝。そして経験を積み、やりたいことを思い

続ける日々が大事。人生何度でもスタートラインに立てるのだと思う。スタートラインを引くのは自分次第。次のスタートラインは何にしよう。そう思うと毎日がワクワクでしかない。



行山流舞川鹿子踊（一関市舞川）2016年5月1日
平泉・春の藤原まつり 中尊寺本堂前 奉納演舞

シシ踊りの太鼓がきこえる

高48回 千田 祥子

南相馬・鹿島日吉神社。
早起きが苦手な私が、夜明け前の境内で十二年に一度のお浜降りの始まりを待っていた。宮崎・椎葉村の夜神楽では、朝陽が射し込む頃、目の前に現れた神楽衆から顔に墨を塗りたくられた。

なぜ、郷土芸能を訪ねるようになったのか。この国で音楽を教えても良い、という免許状を持っているにもかかわらず、「この国の音楽を何も知らない」ことに気付いてしまったから

だった。二〇一二年、日本民俗音楽の第一人者、小島美子先生の講演を聞き、雷に撃たれたようなショックを受けた。その数日後、ひょんなことから一関で、かつての伊達藩領内に広まった鹿踊り（シシオドリ）の練習に立ち会う。そして、これだ！と、再び雷に撃たれた。仮にも音楽学を専攻したはずが、日本の音楽とは？答えられない。一体、こんな問いに今更陥るとは、どういうことか？ぐらぐらと足下

が崩れる思いがした。
それは東日本大震災から一年三ヶ月が経った頃。折しも、故郷を離れざるを得なかった人たちが、避難先で郷土芸能の練習を再び始めた、祭り復

活の準備をしている、そんなニュースが立て続けに聞こえていた。郷土芸能は人と人とを結び付ける。そして見る人見られる人を元氣付けると、多くの人が再確認していた。

郷土芸能は、願いであり供養であり、娯楽でもある。祭礼行事、唄・踊り・節回し・楽器の編成と素材、装束や面。それら全てが土地の気候風土、歴史と地続きであること、またその多様性に圧倒された。生と死の傍で、生きること・食べてゆくことの最中に、土地の神様や先祖様への願いが形となって顕れた芸能。同時に、青年たちの稽古する横で子供達が見よう見まねで踊り、その孫たちを愛おしそうに眺めるお爺さん、お師匠さん達。その光景が美しかった。どの世代にも役割と居場所があることも、惹かれる理由だ。
人の暮らしが電力に頼らなかつた時代から変わらぬ姿で在り続け、人々を惹きつける笛太鼓に誘われて、人はもっと土の上に筵を広げ、お酒を酌み交わすべきと思う、今日この頃。

私のスタートライン

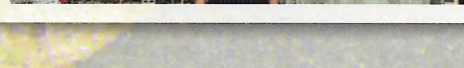
高70回 鈴木 佐和

スタートラインと聞いて私がまず頭に浮かんだのは陸上競技の百メートル走です。選手全員が地に両手をつき横一列に並ぶ。選手達は一度スタートを切ったらもう後戻りはできません。百メートル先のゴールを目指して走るだけです。では私たちの人生はどうでしょう。一度スタートしたら戻ることはできないのでしょうか。スタートラインには一度しか立てないのでしょうか。確かに生まれた時は皆同じスタートラインに立っているでしょう。ただその後の人生において私たちは進むだけではありません。時に後戻りもします。そして何度でもスタートラインに立つことも可能でしょう。スタートラインは自ら設けることができます。

間の浪人生活を終えた私にとって第一志望の東京大学に合格できたことはこの上ない喜びでした。ただたといえ第一志望校に合格できていなくてもこの浪人生活を通して私は一回りも二回りも成長することができたと思います。浪人というのは多くの人が避けたいことだと思いますが、私は浪人をして良かったです。一日のうちこんなにも多くの時間を勉強に費やしたのは初めてでした。今後これ以上勉強に費やすことがあるかも知れません。そんな毎日を通して日々知識が増えていくのはとても楽しいことでした。



できました。このように人生は進んだり止まったり戻ったりしながら進んでいくものだと思います。常に全力疾走をしようという意欲で息切れしてしまうでしょう。ただやる時はやる。目標を決めたら努力を怠らない。これは私が小学三年生の時から続けていることです。四十五分ずつと全力で走り続けることなどできません。私はまだ将来の夢を見つけることができません。ただ、一度しかない人生なので目標は高く抱き努力していきたいです。そしてまた新たなスタートラインに立てるよう日々過ごしていきます。



各回だより

傘寿の同期親睦会

高10回

私も十回生は令和元年傘寿を迎えました。卒業して六十二年、光陰矢の如し、



でしょうか。古希を迎えた時点で仙台南開催の同期会は終了しました。その後を東京近郊在住の同期が引き継ぎました。

東京開催第一回は忘れもしない東日本大震災の時でした。果たして同期会は開催すべきか否かと

思案した結果、こんな時だからこそ同期で集まり、心に溜まっていた思いを話し、少しでも安らぎを持っていたければと開催に踏み切りました。思った通り返信ハガキへの一言コメントは用紙一杯に思いが綴られていました。その想いを皆で共有しようとして纏め、出席の皆さんに配付、想いを共有することが出来ました。以後第五回を迎える今年もコメント集を作成、逢うことが出来なくても想いが伝わるモノとなりました。

今回、返信ハガキを見て、第一に感じたことは八十歳の壁でし

た。気持ちには「ぜひ参加したい、でも体調が不安・自信が無い」と。厚生労働省が敬老の日、百歳を迎えた方が七万一千人を超えた。私共も健康管理に心がけ寝たきり老婆にならないよう自主管理が必要ですね。

第五回を迎えた今回は、傘寿を祝ってサンテリアで乾杯スタートです。今回の大きなテーマは、八十歳を迎え、今後の開催について意見交換が行われました。皆さん今後も続けて欲しいとの要望が強く、次回今の世話役が元氣か確約は出来ません。しかし、同期が再会できる機会を終えんにするには忍び難く継続となりそうです。

(武者 忠子)

プレ傘寿の集い

高11回

紫陽花の美しい梅雨晴れの日、六十年前の乙女達は集った。高校十一回生にとって、今年は卒業後六十

年の節目の年である。思えば二〇一一年の春、桜の美しい時に「古希の祝

弔意

(敬称略)

令和元年9月末日までに同窓会事務局宛に直接お報せいただいた方です。

客員 渡辺 和彦	本44	岩立 豊子(麗華)	本50	馬場 博子(加穂)	高9① 鎌田 明子(八巻)
客員 鈴木 誠	本45	板橋 みえ(板橋)	本51	明石さた子(飯塚)	高9② 佐藤 洋子(四)
客員 山下 武志	本45	佐藤 肇子(加藤)	本51	西村 智子(菅原)	高9③ 矢野 美枝(倉橋)
本35 笹登 登子(阿部)	本45	山田 英子(熊倉)	本51	山田つづ子(高橋)	高10① 岡田 美智子(吉田)
本35 高橋 けい(佐藤)	本46	金 昭子	本51	柴戸たけ子(菊地)	高10② 湯浅 紀子(熊倉)
本37 額賀 友恵(奥)	本46	文屋美和子(早坂)	高2① 柴戸たけ子(菊地)	高11① 小野志寿子(江口)	高10③ 国島 洋子(倉本)
本38 塩原 永子(宮川)	本46	宮川 コウ(藤田)	高3② 大泉 康子(宮崎)	高11② 高橋多恵子	高10④ 湯浅 紀子(熊倉)
本39 大沼やす子(鶴原)	本47	相馬 幸子(菅原)	高3③ 大門 花子(辻)	高11③ 種沢 節子(杉本)	高11① 五十嵐 明子(江口)
本39 佐々木エ(吉田)	本48	清原香代子(田淵)	高4① 武藤 邦子(宮)	高13① 山内 和子	高11④ 高橋多恵子
本42 来間 貞(菅原)	本48	廣田 啓子(逸見)	高4② 榎井江子(松井)	高13② 今野 裕子(倉野)	高11⑤ 種沢 節子(杉本)
本42 帆坂 愛子(芳賀)	本50	加藤 民子(増田)	高4③ 渡邊 智子(沢倉)	高13③ 佐々木洋子(三沢)	高11⑥ 高橋多恵子
本43 小嶋とし(小嶋)	本50	川股 定枝(三浦)	高4④ 佐々木恵子(佐々木)	高14① 黒岩 成子(倉山)	高11⑦ 高橋多恵子
本43 中里 大子(中里)	本50	佐々木光子(都築)	高5① 小浜 トモ(郷土)	高14② 上野 雅子(安倉)	高11⑧ 高橋多恵子
本43 林 幸子(北村)	本50	庄司 和子(瀬野)	高6① 中井とせ(島田)	高16① 黒岩 成子(倉山)	高11⑨ 高橋多恵子
本44 足利 量子	本50	高橋 恒子(大橋)	高6② 柴戸たけ子(菊地)	高16② 荒川 明子(土肥)	高11⑩ 高橋多恵子
				高18① 菅原真紀子(父我)	高11⑪ 高橋多恵子
					高19① 菅原真紀子(父我)

いを！」と計画し、準備万端整い、その日を待っていたところに東日本大震災が起きた。八十名近い同期生が集まる予定のその会は、当然流会となり、その後は集まる機会を逸したまま月日は流れた。

傘寿には一年早いが、おせっかいにも「プレ傘寿の集い」を計画し、近隣の同期生に声掛けした結果、参加者二十七名。経年変化の末の現在の姿に中島丁時代の面影が見え隠れし、懐かしくも和やかに再会の喜びを分かち合った。

何かひとことを！に皆一様に自分史を語り始めた。

(小川 倫子)



還暦同期会

高30回

私たち高三十回生は今年度六十歳、令和元年、なんて区切りのいい私たちのなのでしょう。毎年九月に仙台



同期会を開催していましたが、今年は校舎改築前ということもあり、秋桜祭の時なら気兼ねなく校舎を見学できるだろうと、この日を選びました。まだまだ親の介護に奮闘中の同期生も多いので比較的動き易い昼間の会にしました。

四十二年前に確かにこの女子高生であつた私たちは、心はいつまでも十八歳だけど外見はやはりそれなりになっているようです。

フーコーの振り子を見ては、ワァー!! ロッカー、トイレ、どこもかしこも懐かしい。あの時その時のワンシーンが、友だちの声、先生の声が蘇ってくる。楽しく、幸せな日々。私だけかもしれないが、悲しいとか苦しいとかそういう記憶が全くない。いつも賑やか大さわぎ。還暦を迎えた今も同じく。

同期会には、堀田先生、恵伊先生、ゆるみ先生(菊地先生……考えてみると正確に○○先生と呼びすることが非常に少ない)にご

参加いただきました。同期生も四十四名の参加となり、とても楽しく賑やかな会となりました。

私たち高三十回生は、還暦は赤いビニを着てハワ

「同期会」

—高校時代にタイムスリップ—

高48回

「久しぶり! 元気だった?」

笑顔でやり取りする旧友たちの姿が、目の前に広がる。同期会を開いて良かったと、しみじみ思った。

九月七日、令和元年の総会が開催された。私たち、高四十八回生が幹事学年だった。同日夕方に開いた同期会。四十三名が参加し、しばらくぶりで会ったとは思えないほど、話は盛り上がり、しばしの間、高校時代に戻った感じがした。

特筆すべきは、恩師の参加である。日が迫ってのお誘いになってしまったのだが、三学年時の担任はじめ五名の先生方が、快く参加してくださった。全担任に連絡を試みたのだが、残念ながら電話が繋がらなかった

いで集合写真を撮ろうという企画を二〇二二年二月二十二日に決行しようと計画中です。また、来年五月末に新宿で開催されます東京支部総会では、「還暦

ビューティーズ」という名でタンゴダンスやピアノ演奏を交えた寸劇を披露します。まだまだ目が離せない! 高三十回生です。

(山口 景)



お一人ずつ話していたのだが、私たちが一女生だった当時の年齢を聞き、「えー!」

と、みな一様に驚きの声を上げた。当時、人生の大先輩と思っていた恩師の年齢と、ちょうど同じくらいだったり、すでに超えていたり……ふと我に返り、

複雑な気持ちになったのだった。

ともあれ、旧友や恩師と楽しく食事し、歓談する時

間は、何にも代え難いものだった。

さらに話を盛り上げたのは、幹事が用意した卒業アルバムや、総会で提供された「先生方からのメッセージ集」だった。二十年以上前の運動会や歌合戦や部活動が、瞬時に思い出された。会の最後は、皆で記念撮影。そして、「来年もまた、同期会を開こう!」と確認し合って、会を閉じたのだった。

(早坂百合恵)



・高16回	ホテルモントレ仙台	6月20日	30名
・高18回	日本茶屋やすき	11月14日	16名
・高20回	ホテルニュー水戸屋	6月23日	64名
・高21回	ホテルメトロポリタン仙台	11月3日	42名
・高24回	スカンディア(横浜)	10月19日	36名
・高29回	ホテルメトロポリタン仙台	9月1日	100名
・高39回	あだん(仙台駅前)	6月22日	9名
・高40回	勝山館	10月12日	25名

支部だより

引き継がれるもの

札幌支部

二〇一八年度の札幌支部親睦会(二年前から総会ではなく、親睦会と呼んでいる)を旧道庁赤レンガ前のレストランで開いた。かつては四十人を超える出席者を誇ったという集いも、ご覧の通り大変こじんまりとしたものになった(北海道全体の会員約百二十人)。こしばらくこの規模で推移していて、会の将来についての懸念がある。当然ながら財政も厳しく、本部からのご援助は本

当にありがたい。さて、支部長が交替するとき、旧から新へと引き継がれる箱がある。発足当時から今日までの会についての歴代幹事による記録である。先日、じっくり読んでみた。

札幌支部が誕生したのは、昭和六年(一九三一)。第一回総会出席者二十一名。会費一

円。会員の自宅をお借りし、ご一家あげての歓待を受けたとある。翌一月には新年会、五月には原野でのワラビ採りが行われている。その時々の記録からは、家から解放され一気にな学生の昔に戻った開放感が伝わってくる。この記録も太平洋戦争勃発のため昭和十五年でぶつり途絶える。

会が正式に再開されたのは、世の中が落ち着きを取り戻した昭和三十四年(一九五九)。そして今日に至る。再開当時の幹事のSさんが支部の歩みと総会の様子を詳細に記録し、故郷を遠く離れた地で(当時はその感がひとしおであつたろう)同窓の者が心の繋がりを

持ち、励まし合っている。時代が変わってもこれが支部の役割であり、存在理由であらう。会の将来について考えるときは、記録に残された先輩諸姉の熱い思いを忘れてはならないと思う。

(高9回 杉野目康子)



仙南支部の設立

仙南支部

昨年秋、白石支部を源にした仙南支部を設立いたしました。設立にあたっては、本部のご助言や励ましをいただきました。

設立会当日は、戦後すぐの卒業の高二回生から平成の卒業の高六十一回生まで、六十名の開きのある十七名が一同に集いました。本部より東海林副会長にご臨席いただきました。白石支部長の吉見信子さん(高2



回)のお話で開会の後、人生で一番多感な年頃に過ごした高校生活の思い出をそれぞれ語り合いました。それがそのまま戦後から平成にかけての宮一女高史となっていました。

たび重なる校舎移転、自主研修の修学旅行の実施、廃止そして復活、仙一仙二に続く制服の自由化、クラス対抗合唱コンクール、ブランク等、どのお話にも自主自律の精神が満ちあふれていて、世代を越えて楽しく交流できたことに感動いたしました。また、吉見さん

の民話「舞扇」の素晴らしい語り、大槻幸子さん(高17回)制作の個性的な創作和紙人形の展示で、設立会を華やかに盛り上げていただきました。

今後、心はずむ楽しい交流会(宮一高同窓会仙南支部)を年に一度企画していきたいと考えております。できたら、仙南地区在住の同窓生のさまざまな芸術活動を積極的に支援していけたら良いなあと思っております。同窓生主催のコンサートや発表会、展示会など、誘い合って出かけ、鑑賞し、交流を深めたいと思っております。

仙南地区在住の同窓生の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(高24回 大槻 浩子)

歌集『残灯のこんのとしび』より五首

独り居

原田 夏子

箱を開く即ち飛び出す初蜜柑 老女ひとりの夕べを灯す
コンビニにおでんを求む芥子つき大根・竹輪・蒟蒻・半平
白絹をかつく女性の訪ひこしや雪霏々と降る廊に残る掌
入り来たる風のニンフのあやすにか独り遊びの嬰兒の笑ふ
耳近き人声ありてやうやうに独り歩きの町角に覚む

(客員 昭和36年4月〜56年3月 国語担当)

支部一覧(支部長)

支部名	氏名	卒回	郵便番号	現住所	電話番号	支部名	氏名	卒回	郵便番号	現住所	電話番号
札幌	杉野目康子	高9③	064-0919	北海道札幌市中央区南19条西11-1-25	011-561-0228	仙南	大槻 浩子	高24②	989-1758	宮城県柴田郡柴田町槻木駅西1-3-4	0224-56-4241
秋田	佐野 春子	本41	010-0001	秋田県秋田市中通3-3-16	018-832-2243	福島	吉越 美絵	高30⑥	962-0811	福島県須賀川市おおば町440	0248-76-5084
岩手	高橋千賀子	高13④	020-0861	岩手県盛岡市仙北3-17-4	019-653-2088	東京	西方 郁子	高27⑤	157-0062	東京都世田谷区南島山5-1-28	03-5313-6963
石巻	阿部登喜子	高21⑧	986-0859	宮城県石巻市大街道西2-1-38	0225-22-3325	東海	山田 久美	高26④	441-8105	愛知県豊橋市北山町東浦10-40	0532-47-5270
大崎	高橋おる	高29⑤	989-4102	宮城県大崎市鹿島台木間塚字姥ヶ沢65-2	0229-56-9646	関西	小枝指恵子	高24②	615-8145	京都府京都市西京区榎原角田町1-31	075-391-9083
塩竈	池野 暢子	高16⑥	985-0004	宮城県塩竈市藤倉3-17-5	022-367-1110	熊本	八木 順子	高20②	861-5512	熊本県熊本市北区梶尾町1723-25	096-345-7345
岩沼	菅野 一枝	高22⑥	989-2451	宮城県岩沼市土ヶ崎2-2-1	0223-22-3094						

総会は百名の参加

東京支部

六月二日(日)新宿のホテル「ハイアットリージェンシー東京」で第六十六回東京支部総会が開催されました。出席者はちようど百名。支部からの活動報告の後、ゲストによる講演を満喫し、美味しいフレンチのコース料理に舌鼓を打ちながら交流いたしました。ゲストは能楽師の新井麻衣子さん(高校52回)。母校の創立百二十周年記念式

恩師を訪ねて

あたたかな笑顔は今も健在



小林先生近影

今回は世界史の小林恒夫先生のご自宅を訪問し、たくさんのお思い出をお聞きました。

昭和八年、東京生まれ。少年時代は戦争中で、長野に集団疎開をした経験もあります。あんな無謀な戦争は二度と起こしてはならな

典で会場を魅了したと聞いておりました。が期待以上の講演に会場のあちこちから感嘆の声があがりました。登壇と同時に謡が始まると会場が水の表面のようにピンと張り新井さんの声が波のように伝わってゆきました。もっとじっくり実演が見たかったという声が多く寄せられました。大変大切な能面や衣装の展示にも魅せられました。

す。全員参加でオリジナルのビンゴカードを作るテーブル対抗戦です。今年のテーマは「仙台名物おいしい物」でした。ずんだもち、仙台味噌、温麺、笹かまぼこなど故郷の食べ物を並べたビンゴシートが完成。優勝テーブルには母校の焼き印入のこだまのどら焼きがプレゼントされるとあって会場は大盛りあが



りでした。今回の総会をもって、支部長・副支部長が交代いたします。高校二十三回生の高橋悦子さん・江美史子さんに代わり、高校二十七回生の西方郁子・工藤裕恵・高橋雅子がつとめます。よろしくお願いいたします。来年の東京支部総会は五月三十一日(日)に開催です。関東以外にお住まいの方の参加も大歓迎です。来年は高校三十回生の皆さんの笑顔いっぱい音楽が皆さんをお待ちしています。(高27回 西方 郁子)

小林恒夫先生

い、という先生の強い思いを感じました。

先生が宮城二高(当時は宮城一女高)で教鞭を執られたのは、昭和四十年(五十九

年の十九年間。東北大学文学部史学科で西洋史を専攻され、巨視的なものの見方ができる人を育てることを目標に授業を行ってきた、と熱っぽく語られました。

先生が生徒部長を務められていた時のこと。制服自由化運動が起こりました。

先生方と生徒たちの間に入り、何度も話し合いを重ねたそうです。また必修クラブが制度化される時でもあり、必修クラブの立ち上げに尽力されるなど、宮城一女高が変わる時期に重責を担われました。

部活動では、ソフトボール部の顧問として放課後遅くまで生徒たちとグラウンドにいらしていました。

黒く日焼けした先生につけられたあだ名は「泥だんご」。生徒たちから慕われました。

夏休みは毎年、社会科の先生方と旅行に出かけたそ

うです。津軽半島で工事中の青函トンネルを見学。奈良県明日香村の石舞台古墳や、秘境と呼ばれる十津川村まで行かれました。「あの旅行はほんとうに楽しかった」と心から懐かしんでいらしていました。社会科の先生方はほんとうに仲が良かったのです。

ところで、家庭での先生はどんなご主人、お父様なのでしょう。奥様は音楽の先生。そのため家事は完全に分担制だったそうです。同席していただいたお嬢さんが「オムライスを

作ってくれたこともありま

表彰・受賞・受章

佐藤 成晃(客員)
宮城県芸術協会
文芸賞・芸術祭賞
村松 健(客員)
瑞宝小綬章
三塚 雅子(高7回)
旭日双光章
古賀 詔子(高14回)
仙台市永年勤続委員表彰
(エッセイ発表会推薦委員)
扇畑 秀美(高16回)
仙台市政功労者表彰
(産業・経済功労)
畠山せつ子(高19回)
藍綬褒章(調停委員)

北から南へ

(敬称略)

蔡 翰平(高65回)
第63回全東北ピアノコンクール
東北放送奨励賞
原田 夏子(客員)
歌集『残灯のこんのともしび』
蓬田紀枝子(本48回)
句集『黒き蝶』
林 洋子(高20回)
『園遊解粉』(あやのGreeting)
鈴木 七美(高29回)
『エイジングフレンドリー・コミュニケーション』
千葉(香川)真弓(高33回)
『あやしい政宗伝説』
中村 和代(高50回)
『大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実』(共著)

個展・演奏会

針生美枝子(高4回)
『小紋章子個展』
安部 悦子(高5回)
『スケッチ&小品展』
大野 滋子(高16回)
『大野滋子水彩画展』
大槻 幸子(高17回)
『和紙人形作品展』
設楽 洋子(高19回)
『設楽洋子うつわ展』
馬場みさき(高49回)
『馬場みさきピアノリサイタルVol.2』(フルート)
『ゲスト出演 永原尚子(高49回)』(フルート)





青葉山
駅南一出
口から徒
歩三分。
東北大学
大学院環

◎せんだい環境学習館 —たまきさんサロン—

地下鉄東西線が開通して早四年。その西の終着駅にほど近い青葉山を今回訪ねてみました。

青葉山駅で地下鉄を降り、地下六階部(深さ34m)のホームから、地層をイメージした壁面を眺めながら地上に出ると、そこには広大な東北大青葉山新キャンパスが広がっています。

かつて青葉山ゴルフ場があったその場所は、二〇〇六年に宮城県から東北大に譲渡されました。次々と新たな建物が竣工し、徐々に賑わってきており、コンビニエンスストアやお洒落なカフェができたりと、年々変貌を遂げています。



環境科学研究科棟一階に「たまきさんサロン」があります。「たまきさんサロン」とは、仙台市が二〇一六年四月に開館した市民向け環境学習スペースです。サロンの名の「たまきさん」とは「環」の訓読みから取り、環境に関心のある市民のことを指しています。ここでは、自然科学や歴史、食文化などと環境のかかわりについて各分野の専門家が「サロン講座」を行ったり、環境に関する様々なジャンルの本やDVDの閲覧、貸し出しをしています。また、写真や絵画、フラワーアレンジメント、子供の自由研究作品などを展示することもできます。

児童書の数を増やしたり、親子で楽しめるイベントを企画するなどの工夫を重ね、入館者数も順調に伸び、仙台市民の環境に対する関心、教育の向上に貢献する場となっています。

環境科学研究科棟一階に「たまきさんサロン」があります。「たまきさんサロン」とは、仙台市が二〇一六年四月に開館した市民向け環境学習スペースです。サロンの名の「たまきさん」とは「環」の訓読みから取り、環境に関心のある市民のことを指しています。ここでは、自然科学や歴史、食文化などと環境のかかわりについて各分野の専門家が「サロン講座」を行ったり、環境に関する様々なジャンルの本やDVDの閲覧、貸し出しをしています。また、写真や絵画、フラワーアレンジメント、子供の自由研究作品などを展示することもできます。

◎災害科学国際研究所

二〇一一年東日本大震災の一年後に設置されました。大震災の被害実態と教訓に基づく「実践的防災学」の国際研究拠点となることを目的としています。七つの部門、三十を超える分野で世界最先端の研究・教育が推進されています。



宮城地区は、昭和22年10月から28年7月まで宮一女高があ

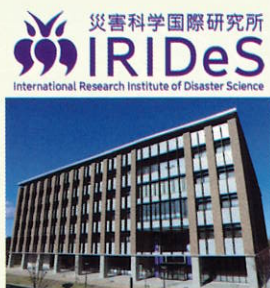
二〇一一年東日本大震災の一年後に設置されました。大震災の被害実態と教訓に基づく「実践的防災学」の国際研究拠点となることを目的としています。七つの部門、三十を超える分野で世界最先端の研究・教育が推進されています。

◎東北大農学部

かつて仙台市の中心部雨宮地区にあった農学部は、東北大学の青葉山新キャンパス整備事業の一環として、二〇一七年、現在の場所に移転しました。(雨宮地区は、昭和22年10月から28年7月まで宮一女高があ

研究所には被災地の復興・再生に貢献することを目的に、一般に開放された展示室や資料室もあり、イベントやセミナーも数多く開催されています。

英文名称のIRIDeS (イリデイス) は、希望・高貴などの象徴としてアヤメに由来しています。アヤメをモチーフにしたロゴマークは「災」の字を反転させたデザインになっており、災いを転じて、復旧・復興の促進や、災害に賢く対応できる社会に変えていく、という決意が表されています。



た場所として思い出深い方もいらっしゃるでしょう。現在は医療モールなどの整備工事が進んでいます。新たなキャンパスは、青葉山駅からキャンパスモビルを四百メートルほど西へ進んだところにあります。本棟、別棟からなる総合研究棟、実験圃場、動物棟・牧草地、講義室・図書館・厚生施設からなる青葉山コモンズで構成されており、これまでのような都会の喧騒とは無縁の、時には熊と遭遇してしまうこともあるほど自然豊かな場所に広がっています。

また、キャンパスのさらに南側には、東北大学の学生寮「ユニバーシティ・ハウス青葉山」があり、日本人だけでなく様々な国籍の学生たちがともに生活し、グローバルな交流が深められる環境となっています。

また、キャンパスのさらに南側には、東北大学の学生寮「ユニバーシティ・ハウス青葉山」があり、日本人だけでなく様々な国籍の学生たちがともに生活し、グローバルな交流が深められる環境となっています。

◎青葉の森

青葉山にある管理センターを中心に「東側エリア(三居沢方面)」「西側エリア(青葉台方面)」に散策路が延びる青葉の森緑地。豊かな山林に一歩足を踏み入れると鳥のさえずりが迎えてくれます。

また、キャンパスのさらに南側には、東北大学の学生寮「ユニバーシティ・ハウス青葉山」があり、日本人だけでなく様々な国籍の学生たちがともに生活し、グローバルな交流が深められる環境となっています。

この青葉山には今後、世界初となる次世代型放射線光施設が整備されます。これは、日本の科学技術の進展と、国際競争力の強化に貢献する施設であり、知の拠点として、東日本大震災からの復興に役立つことが期待されています。

この青葉山には今後、世界初となる次世代型放射線光施設が整備されます。これは、日本の科学技術の進展と、国際競争力の強化に貢献する施設であり、知の拠点として、東日本大震災からの復興に役立つことが期待されています。

この青葉山には今後、世界初となる次世代型放射線光施設が整備されます。これは、日本の科学技術の進展と、国際競争力の強化に貢献する施設であり、知の拠点として、東日本大震災からの復興に役立つことが期待されています。



令和2年度総会のご案内
 日時: 令和2年9月19日(土)
 10時30分~(受付は10時から)
 場所: 仙台国際ホテル
 仙台市青葉区中央4-6-1
 TEL.022-268-1111
 問い合わせ先: 同窓会事務局
 電話・FAX: 022-261-7855(同窓会専用)
 E-mail: info@miya1dousoukai.com
 (みや1どうそうかい)
 総会当番: 高39・49・59回
 会報当番: 高29・39・49回

- 【編集委員】
 (高28回・昭和51年卒) 大日方重記 熊頭 保子
 (高38回・昭和61年卒) 鈴木 弘子 樋口 薫
 (高48回・平成8年卒) 中村 典子 白井恵美子
 姉帯 泉
 菊池 若菜 菅野 明子
 新沼 ゆき 佐賀 直江
 保科 美和
 (常任幹事)
 山田リツ子 東海林弘子
 我妻 謙子 佐藤 響子

編集後記

様々な世代の同窓生が集まり、母校の歩みと各々の青春時代を振り返りながら進めてきた編集会議。先輩方のお話を伺っていく中で、学び舎は姿形を変えても、自主自律の精神はずっと変わらずに続いてきたことを実感する場面がたびたびありました。

新しく生まれ変わる校舎でも、後輩たちはその精神をしっかりと受け継いでいくべく、最後にお忙しい中ご寄稿いただいた皆さま、誠にありがとうございました。